

校歌

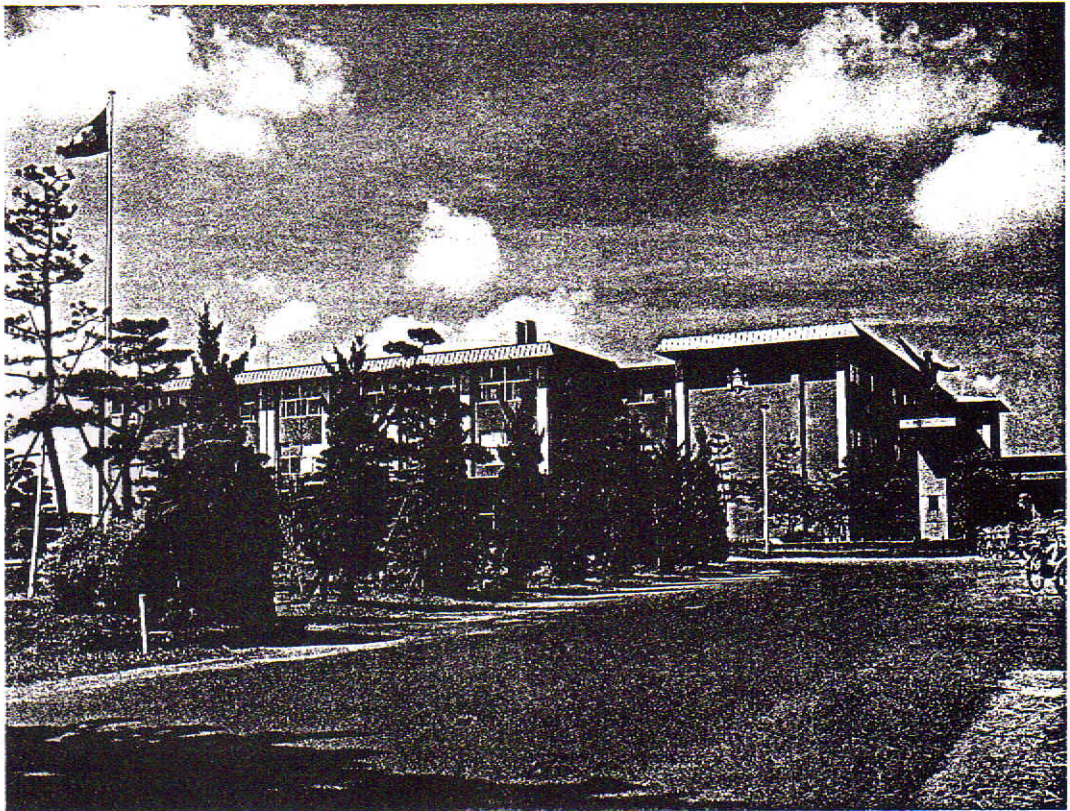
文学博士 藤村 作詞
東京音楽学校教授 岡野貞一 作曲

一、そのかみはるか域^{くも}濶^{ひろ}く
尽きせぬ流れ米代の
水に我等の誓^{ちか}はしき
若き生命を讀へつつ
若き生命を讀へつつ

二、み空にひびく日本海
沖より寄する巨涛^{おきなみ}の
巖^{いわ}つんざく勢に
強き力を学びつつ
強き力を学びつつ
強き力を学びつつ

三、平和の相樽^{すがね}子山
常盤の緑旭日に
映えて我等の麗はしき
清き操をたくへつつ
清き操をたくへつつ
清き操をたくへつつ

四、薫も高き学び舎の
象徴^{しほ}をかかげひたすらに
学びの道を究めよや
奮へ松陵我が健児
奮へ松陵我が健児
奮へ松陵我が健児



校舎前景

応 援 歌

潮騒さゆる

一、潮騒さゆる北海の岸の
ほとりに地を占めて
たゆまぬ歩み幾年の
陣容なりて時至る

二、見よこの姿この光
奥羽の華とうたわるる

高き誇を身にひめて
立てり能高健男児

三、百練千磨山を抜く
力は内に溢れたり

誰かどめん若人の
嵐に向う熱血を

四、いざや征衣の袖軽く
奮えてゆくや我が選手

いざや輝く栄冠を
かち得て帰れ我が選手

戦わん哉

一、戦わん哉時至る
我に敵する何者ぞ

松陵健児ゆくところ
陣鼓山河に高鳴りて

征覇の望み今ぞ燃え
ここ昂然の意気高し

二、春雪のべの花かすみ
消えて松陵緑せば

血は湧き立ちて逆まきて
燃ゆるのひに北の子は

利剣に光を仰ぎしか
遂に試練の時至る

三、三年暫しの夢追わぬ
ますらたけをの今日の日

時乾坤に移ろいて
聖者の鐘は今鳴りぬ

健児理想も華やかに
輝く覇業をなさん哉

北羽に吠ゆる

一、北羽に吠ゆる米代のの
碧潤くだけ野をひたし

大河悠々海に入る
ゆかしの国に開をあく

高き理想の若人よ
戦わん哉時至る

二、曇らぬ胸に伝統の
幾星霜の歴史をば

栄冠かち得てかざらんと
刻みし五体は火と燃えて

唯奮進の若人よ
戦わん哉時至る

三、涙をのみて去りゆきし
幾多の友の望みをば

果さん時は今なるぞ
行け松陵の健児

行け松陵の健児
戦わん哉時至る

凱 歌

一、天馬空征く雄たけびに
燃ゆる健児の意気の火や

宴にけがれし巷をよそに
春秋きたへし腕によりて

誉は高し優勝旗

二、北斗ひとたびひらめけば
伏して群星影もなし

勝利をかたどる桂の冠
栄ある凱歌を胸に秘めて

誉は高し優勝旗

日 本 海

日本海の荒波の

燃ゆる血潮のしぶき浴び
雄図目ざして今立てり

健児征馬のゆくところ
敵城潰えて影もなし

勝利 勝利
誉れは高し我等が選手